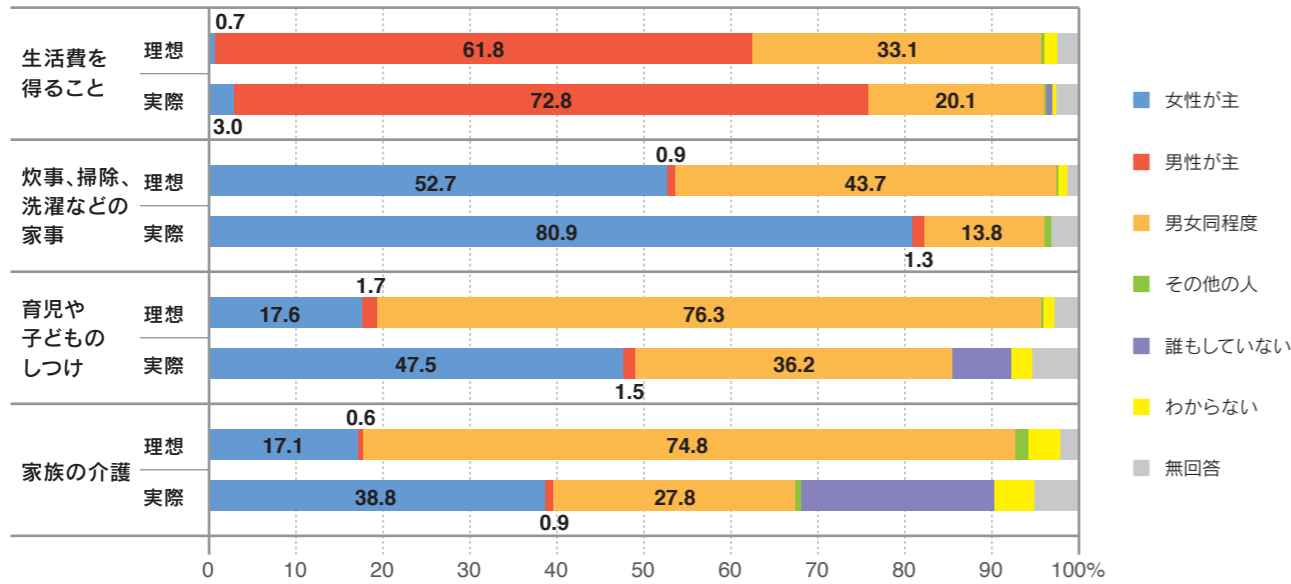


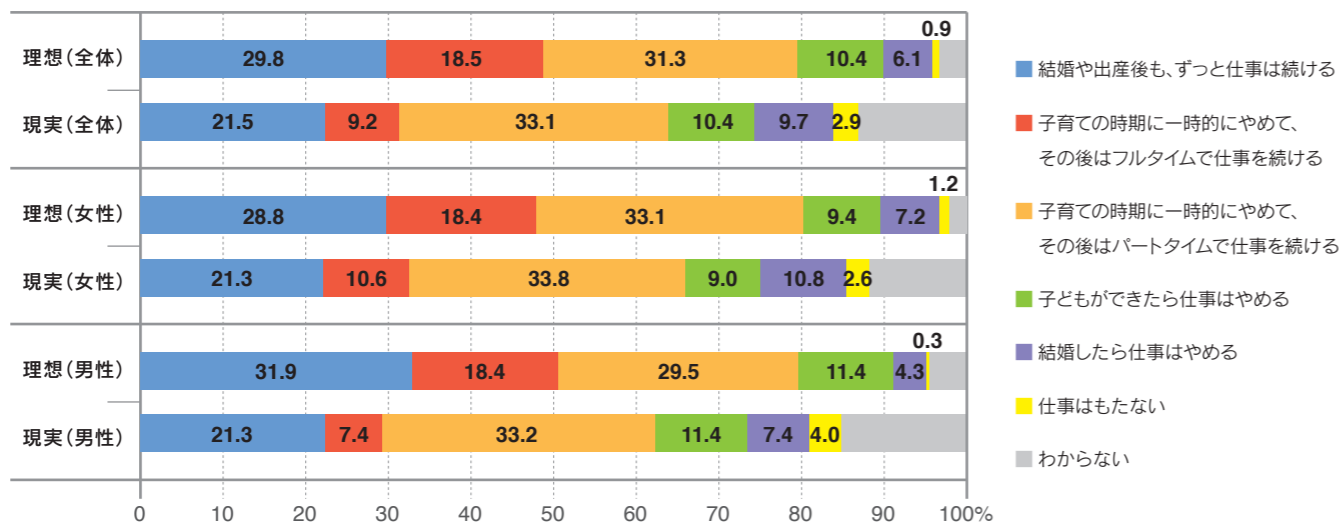
3 「日常生活における役割分担についての理想と実際は？」



子育てと介護では、男女が同じように分担するのがいいと思っている人が多いけど、お金を稼ぐことは男性、家事は女性が主にやるのがいいと思っている人が多いんだね。
でも実際の役割分担を見ると、お金を稼ぐこと以外はまだまだ女性が主に担っているようだね。



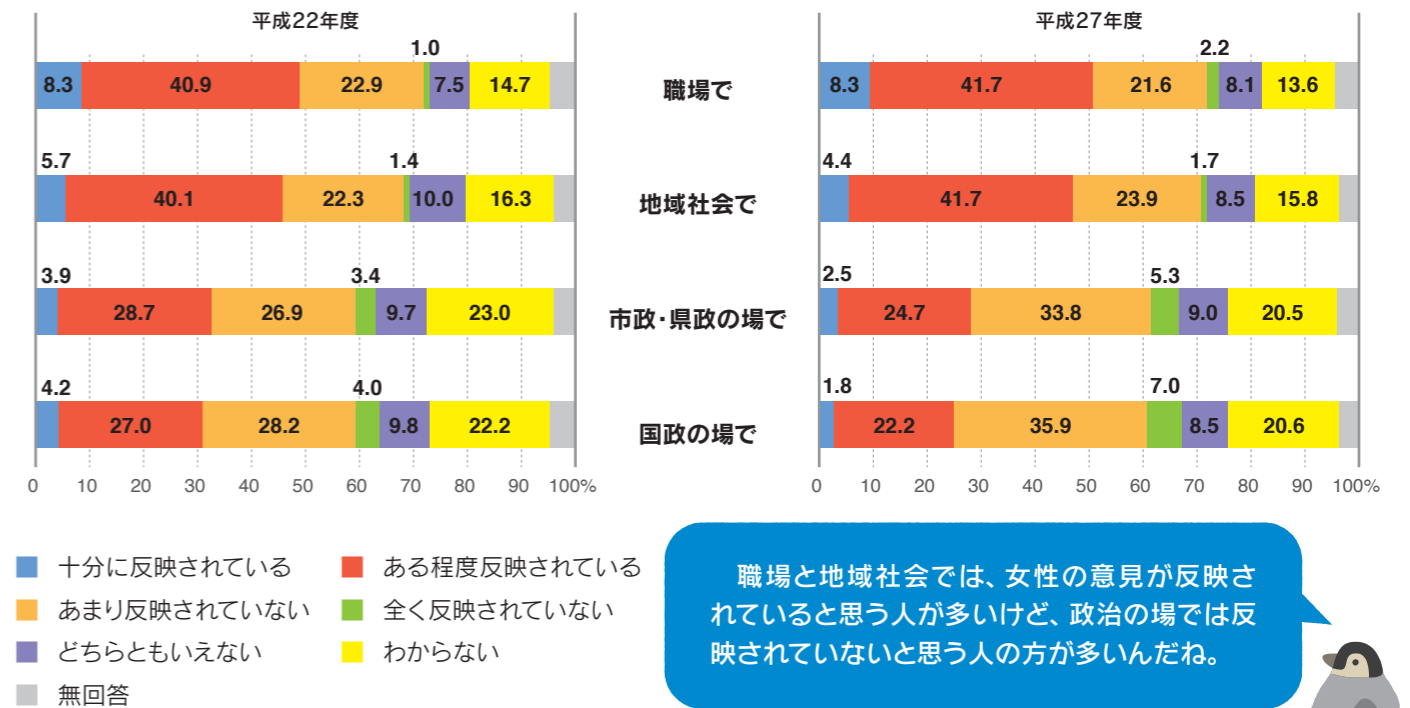
4 「女性の仕事についての考えで、あなたの理想と現実が一番近いのは？」



女性自身は、子育て中は仕事をやめて、その後にパートタイムで仕事を続けるのがいいと思っている人が一番多いけど、男性は、女性にずっと仕事を続けてほしいと思っている人が多いんだね。現実をみると、パートタイムで仕事を続ける女性が一番多いんだね。



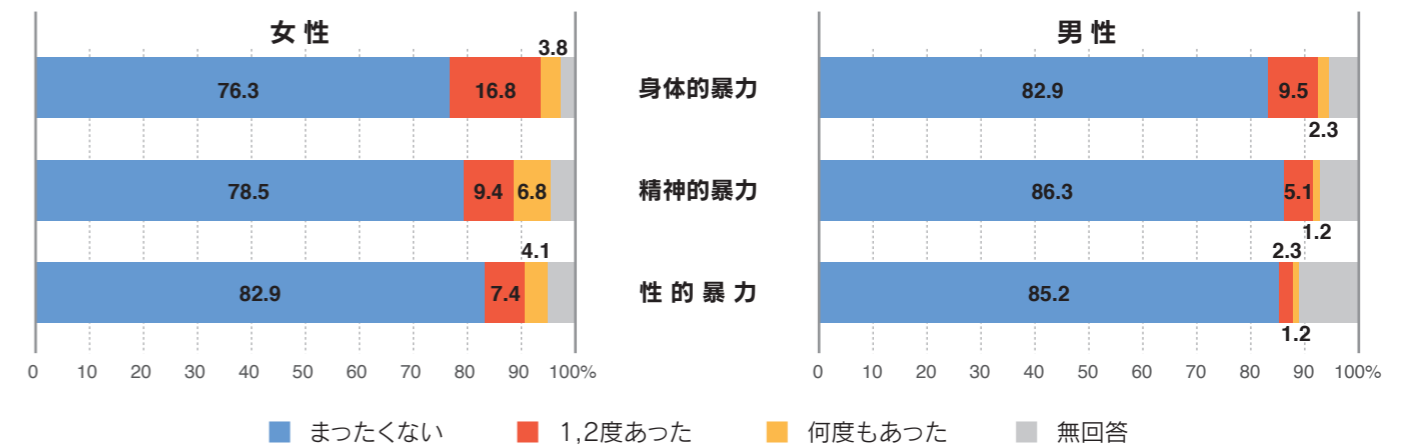
5 「方針や政策を決めるとき、女性の意見はどの程度反映されていると思いますか？」



職場と地域社会では、女性の意見が反映されていると思う人が多いけど、政治の場では反映されていないと思う人が多いんだね。



6 「配偶者等からのDV(ドメスティック・バイオレンス)の被害経験は？」



夫婦などの間で、身体に対する暴力をふるわれたことがあるのは、女性の5人に1人、男性の8人に1人にも上るんだ。DVは社会の問題として、みんなで考えないといけないね。



今回の市民意識調査では、「性別にかかわらず子どもの個性を重視して育てる方がよい」の割合が8割を超え、「男性は仕事、女性は家庭」という性別役割分担に反対する割合が過半数を超えたことなどから、男女共同参画の理念が着実に浸透していることがうかがえます。しかし一方で、生活費を得るのは主に男性であるべきという考えが根強く、家事労働の負担が女性に偏っていること、特に政治の場で女性の意見が反映されていないと思う人が多いことなど、問題も浮き彫りになりました。男女が社会のあらゆる分野でより平等になるためには、固定的な社会通念や慣習の見直しを進めるとともに、男性の理解と協力、そして女性の意識の向上が求められています。

市民意識調査報告書は市ホームページからご覧になれます。

鹿児島市 男女共同参画 調査